

## ミョウガ (ショウガ科)

日本原産で、人気のある山菜の一種。半日陰地を好み、乾燥しやすいところは避ける。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地栽培 1年目			定植 ⊙						収穫			
2年目以降												

### 1) 適地

半日陰地で、あまり乾燥しないところが適しています。過湿に弱いので、水はけの良いところを選んだ方がよいでしょう。

### 2) 品種

ミョウガは花蕾の発生時期によって、夏ミョウガ（早生種）、秋ミョウガ（中・晩生種）に分かれています。花ミョウガ栽培は夏、秋ミョウガを、ミョウガタケ栽培では秋ミョウガを使います。根株は園芸店で購入できます。

陣田早生、諏訪1号、諏訪2号、諏訪3号など

### 3) 作り方

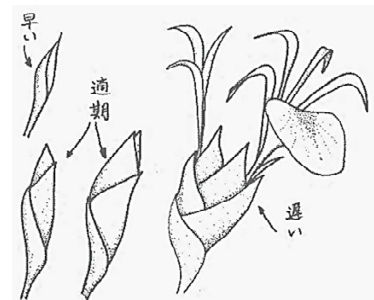
【圃場の準備】定植の1か月前に、1m<sup>2</sup>当たり堆肥2kg、苦土石灰100g、BMようりん50gを施し、よく耕します。定植の1週間前には基肥として1m<sup>2</sup>当たり高度化成肥料80gを施用し、幅60cmの畝を立てます。

【定植】萌芽前の3月上旬～中旬に地下茎を芽付きのまま15cm程に切り、定植します。畝上に掘った深さ5～6cmの溝に、芽の間隔が15cmとなるよう1条で定植します。

【追肥】定植の1か月後に、1m<sup>2</sup>当たり高度化成肥料40gを株間と畝肩に施します。

【管理】追肥後、畝全面に厚く敷きワラをします。薄いとミョウガ独特の紅色が出にくくなります。梅雨期は排水をよくし、梅雨明け後は乾燥させないように灌水します。定植2年目以降は株が増えてきますので、5～6葉期頃に1m<sup>2</sup>当たり50～60本に間引きます。間引いた株は別のところに植え替えることもできます。

【収穫】7月中旬に株元から出てきた花蕾を収穫します。畝の境からも次々と出てきますので、敷きワラを軽く上げてよく確認します。1回目の収穫後も5～7日間隔で数回収穫できます。花蕾の先端から黄色の花が出ていればとり遅れです。



収穫時期の判断

### 4) 病虫害防除

連作、密植、排水不良による根茎腐敗病や、高温、乾燥による葉枯症などの病害が出ますが、排水、間引き、遮光などでかなり防ぐことができます。